

漢語「了解」の意味変化¹

— 太陽コーパスの分析を中心に —

中 山 健 一

要 旨

現代語で「了解」（「諒解」など他表記を含む）は、他者の要求・申し出などを「承諾」という意味で使われることが多い。しかし、明治大正期の書き言葉では、現代語での「理解」に近い意味で使われていることが多い。本研究では「了解」の意味の変化を太陽コーパス（総合雑誌『太陽』1895, 1901, 1909, 1917, 1925年分）を用いて調査した。今“意味A：理解”と“意味B：承諾”とすると、「了解」がサ変動詞の場合、太陽コーパスにおいて年代を問わずほとんど全て意味Aで使われている。一方、名詞の場合は特に1917年以降、意味Bが現れている。BCCWJを使った現代語の調査では、名詞も動詞も意味Bが圧倒的多数であった。結論として、「了解」は1910年代頃までは名詞であれサ変動詞であれ意味Aで使われていたが、1920年前後から名詞の場合で意味Bが生じて、その後、名詞の場合が動詞の場合に先行して、意味Bが広がったといえる。

キーワード：漢語、「了解」、太陽コーパス、意味の変化、構文的な構造

1. はじめに

現代日本語（東京方言）における「了解」は、次の例のように、他者の行為、あるいは要求・申し出などを承認・承諾するという意味で使われることが多い。

- (1) 丸山が東大3年のときの受講ノートの余白に書きつけたペン字のAB対談形式の時局批評で、丸山の死後にみつかったのを夫人の了解を得て初めて公にするものだそうである。(BCCWJ：朝日新聞)

しかしながら、明治大正期の書き言葉では、現代語では「理解」を使うような文で「了解」が使われていることが多いようである。例(2)は、物事（「意義」）の理解を表しており、承認・承諾の意味は含まれない例である。

- (2) 併し博士は生物界に於ける共同生存の意義を充分に了解されて居ない様に見える。(太陽1909年2号：『自然界の三大矛盾』に就て)

このように、明治大正期の「了解」の意味と、現代語での「了解」の意味には、違いがみられる。本稿は、「了解」の二つの意味、便宜的に他の語へ言い換えるのであれば、「理解」の意味（以下、「意味A」とする）と「承諾」の意味（以下、「意味B」とする）の二つ

のどちらで使われるのかに着目して、「了解」の意味の通時的な変化をコーパスを用いて調査する。

2. 先行研究—辞書の記述—

管見のかぎり、「了解」の語義、およびその変遷に関する論考は見当たらなかった。以下、先行研究における「了解」の語義の捉え方として辞書の記述を挙げる。また、漢字表記・品詞についてもまとめる。

まず、現代語の辞書についてまとめ、次に、明治期の辞書についてまとめる。

2.1 現代語の辞書

小型・中型国語辞典を参照したが、いずれも語釈に大きな違いは見られなかった。ここでは、中型国語辞典のうち比較的記述の詳しい「学研国語大辞典」と「大辞林」の語釈を挙げる。

・「学研国語大辞典」

りょうかい【了解】【諒解】【領解】【領会】《名・他サ》 物事の筋道・理由・意味などをよくのみこむこと。さとること。また、理解して承認すること。「一に苦しむ」「伸子はその作を書いた衷心の事情が分れば、ある一が得られるだろうとく宮本・伸子>」「議決権なきものと一します<城山・総会屋錦城>」（類）了承

・「大辞林」

りょうかい【了解】【諒解】（名）スル² ①事情を思いやって納得すること。理解すること。のみこむこと。了承。領解。領会。「事情を一する」「一できない」
②無線などの通信で、通信内容を受け取ったことを表す語。『「ただちに行動を開始せよ」』『「一」』
③〔哲学の専門用語 略〕

加えて、空見出し「『了解①』に同じ」として「りょうかい【領解】」と「りょうかい【領会】」を立てている。

以下、これら2つの辞書の記述をもとに、語義、漢字表記、品詞についてまとめる。

まず、語義について、「学研」では、「理解」としての意味を挙げたのち、「また、」として「承諾」の意味を挙げている。「大辞林」では「①」の意味では「理解」としての意味の説明のみだが、別語への言い換えの1つとして「了承」を挙げている。

このように、辞書の記述では、本稿で問題とする「了解」の2つの意味を別義とは捉えていないものの、両方に対して言及がある。

次に、漢字表記について、【了解】【諒解】【領解】【領会】の4つの表記が挙げられている。これら4つの表記での意味の違いには言及はない。

最後に、品詞について、語釈の前の品詞情報にあるように、名詞、および、「了解する」という形での動詞として使われるのが主である。それ以外に、「大辞林」の「②」の語義

のように、感動詞的に使われることがある。

2.2 明治期の辞書

明治期の国語辞書について、大空社『明治期国語辞書大系』（普通語辞典（普）が19巻、雅俗・俗雅辞典（雅）が14巻³⁾）に収められている辞書のうち、「了解」が見出し語に挙がっていたのは以下であった。（末尾の〔 〕はこの大系での巻号）

- (i) 『漢英対照いろは辞典』（1888年〔普2〕）
- (ii) 『和漢雅俗いろは辞典』（1888～1889年〔普4〕，増訂二版 1892～1893年〔普7〕）
- (iii) 『辞林』（1907年〔普16〕，四十四年版 1911年〔普20〕）
- (iv) 『ことばの泉』（大增訂 補遺 1908年〔普18〕）
- (v) 『大辞典』（1912年〔普21〕）

語釈について、(i)「がつてんする，さとる To understand; to perceive」，(ii)「さとる，ゑとくする」，(iii)「のみこみ得ること。合點すること」，(iv)「さとること。ゑとく。合點」，(v)「ゑとく（會得）ト同ジ語」（「ゑとく」の見出しには「ワカルコト。＝ガテン。＝了解」という語釈）としている。この限りでは現代語のような「了承，承諾」に近い意味は全く記述されていないことが分かる。

漢字表記は(i)が【領解】，(ii)～(v)が【領會】としている。また，(v)での「ゑとく」の語釈での言い換えとしては【了解】という表記を使っている。

以上から，冒頭に述べたように，現代語と明治期では「了解」の意味が同じでない可能性が高い。以下，これを踏まえて，事例分析を行なう。

3. 分析の前提

3.1 「意味」の捉え方

一般に，ある1つの語が性質の異なる物事を指し示しうる。その場合「意味」が違う，つまり別義といえる場合も，同じ「意味」として括れるが用法・ニュアンスが違うといえる場合もある。しかしながら，両者の線引きは容易ではなく，線引きの方法について明確な答えを筆者は持っていない。

本稿では，便宜的に「了解」という語の，「理解」としての使われ方と「承諾」としての使われ方を，「意味」の違いとして論を進めることとする。

3.2 意味を支える構文的な構造

「了解」の意味の判断基準は，読み手である筆者の判断となる。しかし，主観的な判断に陥らないように可能な限り客観的な条件を明らかにしていく。それは，それぞれの意味が実現される言語的な条件，さらに狭く言えば構文的な条件である。ここでは「構文的な構造」と呼ぶ。具体的には，連語（語結合）的な構造，つまり，名詞としての「了解」であればそれがどのような動詞と組み合わせるか，動詞としての「了解」であればそれがど

のような名詞と組み合わせるかがもっとも基本的なものである。その他、特定の語との慣用的な組み合わせなども含む。方法論的な詳細は、中山（2009）を参照されたい。また、奥田（1967）の分析方法を参考にしている。

3.3 表記

2節で触れたように、表記は【了解】【諒解】【領解】【領会】の四つが考えられるが、それぞれを別語ではなく同一語の異表記として扱う。本稿では、「了解」とカッコ書きにした場合には「語」を表わすものとし、四つの表記の代表形として扱う。

3.4 品詞の違い

品詞の違いは、意味の違いと相関がある可能性がある。そのため、実例分析は、品詞を区別して行なう。名詞・動詞（～スル）が主だが、それ以外に、先行研究で挙げた「大辞林」が指摘するように承諾の返答として「了解」単独で感動詞的に使われることがある。本稿ではこの種のものを「大辞林」のようにまったくの別義として捉えることはしないが、他の例とは区別して扱う。よって、品詞別に「名詞」「動詞」「感動詞的なもの」の3つを区別して分析する。

3.5 コーパスと実例収集の手順

調査対象は、明治後期以降とする。それ以前の言語資料は調査対象とすることができなかった。また、媒体は、書かれた言語資料とする。書き言葉に限定する理由として、言語資料（コーパス）の入手のしやすさという調査環境の要因もあるが、「了解」自体が文章語であり、書かれた言語資料に多用されると考えられるからである。

対象とする主資料は「太陽コーパス」（国立国語研究所）である。総合雑誌『太陽』のデータベースで収録号の発行年は、1895(明治28)年、1901(明治34)年、1909(明治42)年、1917(大正6)年、1925(大正14)年の5つの期間である。市販版のものを使用し、付属の検索ツール「ひまわり」で、3.3で挙げた四つの表記を検索し、実例の抽出を行なった⁴。

加えて、比較のための現代語の言語資料には、同研究所「現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）」のオンライン版「中納言」を使用した。「太陽コーパス」との比較という観点から検索対象を「新聞」と「雑誌」に限定した。このコーパスではタグ付けに際し、異なる漢字表記でも「語彙素」（辞書の見出し語に相当）は「了解」に統一されているので、「語彙素」が「了解」という条件で検索をした。表記別の実例数は表1の通りである。

以下、4節で、意味分類の基準となる「意味を支える構文的な構造」をもとに具体的に実例を分析したうえで、5節で、意味A、意味Bの実例数の変化について述べる。なお、実例を挙げる際、太陽コーパスの実例は「太陽（発表年 号）：（記事名）」、BCCWJの実例は「BCCWJ：（新聞・雑誌名）」のように情報を記す。

表1 表記別 実例数

コーパス	太陽コーパス						BCCWJ 新聞雑誌
発行年	1895	1901	1909	1917	1925	合計	2001 －2005
【了解】	19	34	72	79	37	241	46
【諒解】	0	1	14	19	35	69	0
【領解】	0	6	12	3	0	21	0
【領会（會）】	1	0	3	2	0	6	0
合 計	20	41	101	103	72	337	46

4. 構文的な分析—意味を支える構文的な構造—

4.1 二つの意味の違い

まず、「了解」の2つの意味の違いについて述べる。

意味A（≒理解）が表わすのは外界の事柄に対する認知活動であるのに対し、意味B（≒承諾）は動作・行為の実行に対する態度である。そのため、「了解」が名詞の場合も動詞の場合も、意味A・Bともに主体は人、または人の集団としての組織であり（「人の了解」／「人が了解する」など）、対象は、意味Bでは動作・行為となり、意味Aでは行為・動作でない事柄、多くの場合、抽象的な事柄や物事の状態や性質となる。また、意味Aでは他の人（相手）との直接的なかわりはないのに対し、意味Bは、他の人（承諾を必要とする相手）とのかわりがある。以上をまとめると、次のようになる。

表2 「了解」の2つの意味

意味A ≒理解	→外界の事柄に対する認知活動		
	主体	対象	相手
	人（組織）	動作・行為でない	なし
意味B ≒承諾	→動作・行為の実行に対する態度		
	主体	対象	相手
	人（組織）	動作・行為	人（組織）

4.2 意味を支える構文的な構造

4.1で示した意味的な関係の反映として、意味A、意味Bそれぞれの構文的な構造をとりだすことができる。

4.2.1 意味A（≒理解）を支える構文的な構造

<動詞の場合>

(i) 名詞ヲ（抽象的な事柄）＋了解スル 太陽：148例/BCCWJ：2例

名詞ニ就キ／ニ就キテ／ニ対シテ（抽象的な事柄）＋了解スル

太陽：4例/BCCWJ：0例

- (3) 斯くては到底虚心平氣に韓人の真相を領解すべき餘地あるべからず。治下人民の性情を領解する能はずして一に獨自己の見解によりて萬般の施設を運らす、運らす所巧妙ならざるにあらざるも、殆んど手答へなく、概ね失敗に了るは見易き道理なり。（太陽1909年6号：政治、外交 統監政治の失敗）
- (4) 併し博士は生物界に於ける共同生存の意義を充分に了解されて居ない様に見える。（太陽1909年2号：『自然界の三大矛盾』に就て）例（2）再掲
- (5) 自覺促進には平素所謂成人教育（アダルト・エデュケーション）に於て帝國憲法の概要，立憲國民たるの心得，選舉に關する權利義務等に就き十分に了解せしむるの策を講ずると同時に，小學中學の教科書に於て將來の國民に向つて此等の智識を涵養する上に一層の注意を要する。（太陽1925年5号：憲政の危機と対策）

抽象的な事柄を表わす名詞について，具体的には，社会的な事柄（「韓人の真相」「治下人民の性情」「選舉に關する權利義務等」「英国人の生活状態」「時代の真相」「その国民の思想」），科学・學術（「共同生存の意義」「精子の作用」「沈殿岩の特性」「日本画の歴史」），人の内面（「僧の苦心」「政府の意」），言語（「佛語」「外國語」）など様々なものが来る。太陽コーパスではこの種の例が圧倒的に多く，全体の4割を占める。なお，この種の例は，少数ながら，BCCWJの実例にも存在する。

- (6) タイトルでも，猿と人の間に＝（イコール）が入っているが，そこに著者のこだわりがある。猿と人の感情の連続性を了解しようというのが，この「道ひらき」のテーマの一つだからだ。（BCCWJ：京都新聞）

(ii) 互イニ／ヲ＋了解スル 太陽：12例/BCCWJ：0例

「互いに」「互いを」などの場合，動作の対象は相互動作の相手自身となり，意味Aとなる。

- (7) かくて不知不識の間に相互を諒解し工人の要求するところ，社員の命ずるところは容易に疏通し得る譯けである。（太陽1925年3号：我国最初の利益分配制度を実行し，労働問題の解決に一新曙光を点じたる東京電気会社の功労株分配）

(iii) 節（物事の状态や性質）＋了解スル 太陽：50例/BCCWJ：0例

物事の状态や性質を表わす節が来る場合も多い。「～ヲ／～コトヲ／～トコロヲ／～ト」などがみられた。後述するように，「～コトヲ＋了解する」は，意味Bでもありうるが，しかし，主語に非情物が多いこと，述語が名詞や形容詞（形容動詞），あるいは存在表現であることが意味Aの特徴である。

- (8) 古來最も有力に統一を妨げたるものは交通の不便なるに在りしことを適切に了解

- するものは、同時に世界統一の大業を促進するの大勢力は實に交通機關の發達なることを自ら了解するならん。(太陽1917年4号：平和と世界の統一(強国論))
- (9) 若夫、普通片々たる記者であるならば、忽ち倨傲尊大の風をなし、自己廣告を盛にする場合であるのに、何等如此の態度なかりしは、決して三文評論家でない事を諒解せしむるに足る。(太陽1909年2号：故春汀鳥谷部銑太郎君)

(iv) 節(疑問文) + 了解スル 太陽：17例/BCCWJ：0例

対象を表わす従属節が疑問文の場合、その節の表わす事柄にかかわらず、その真偽や疑問詞で示される事柄を理解するという意味であり、つねに意味Aとなる。

- (10) 人民は無識にして未だ憲政の何たるかを了解せざるものが多い。(太陽1917年5号：欧州大戦と露国の革命)
- (11) 日本は過去の二大戦役に於て戦争の物質的精神的代價の如何なるものかを了解したり。戦争は日本の發展を妨げしを悟りたり。(太陽1909年5号：外人の日本観)

(v) 難易：了解シ易イ／了解シ難イ 太陽：5例/BCCWJ：0例

意味Aは何らかの認知活動であるため、動作達成の難易度が問題になる。それに対し、動作・行為への態度である意味Bでは、動作達成の難易度は問題になりにくい。

- (12) 其行文平易、説き方の懇切にして誰にも了解し易い處、初學者の参考として最も當を得たものと謂はねばならぬ。(太陽1917年2号：新刊紹介)

<名詞の場合>

(vi) 難易：了解ニ苦シム 太陽：17例⁵⁾/BCCWJ：0例

動詞の場合の「(v)」の「難易」と同様、この場合も意味Aとなる。

- (13) 市長が自分の俸給三千圓を減じた眞意は、どう考へて見てもその當時僕は甚だ了解に苦んだ。(太陽1917年13号：東京市長としての奥田男)
- (14) 是は獨逸の爲めには非常に不利益な譯で、今後獨逸は果して何國をたよりとする積であるか、吾輩などは如何も了解に苦しむ、[後略] (太陽1917年3号：米独国交斷絶の側面観)

(vii) 名詞ハ(事柄)/節ハ(状態や性質)/節(疑問文) + 了解ガデキル

太陽：11例/BCCWJ：0例

形の上から名詞としたが、動詞としての「了解する」の可能形「了解できる」に近いといえる。

- (15) 女性が生む力に恵まれてゐる所以は、此感情の優越性なるを以てしても了解が出来るであらう。それ故女性は、先天的に男性よりは美の本質に秀れ、女性でさへあれば如何なる女性でも、男性が如何なる男性でも美しいとは云ひ得ざるに反し、美しい點を發見し得るものだと思へてゐるのである。(太陽1925年1号：現代の女性美)

4.2.2 意味B（≡承諾）を支える構文的な構造

<動詞の場合>

- (i) 名詞ヲ（動作・行為）／～スルコトヲ 了解スル 太陽：0例/BCCWJ：9例

前述の通り，対象が動作・行為の場合，「承諾」の意味になる。この種の例は太陽コーパスにはみられない。以下，BCCWJの例を挙げる。

- (16) 日本の販売元は「使用許諾を得ている」と説明しているが，ラム氏は「曲名変更は了解していない」としている。（BCCWJ：産経新聞）

- (17) 政府は，[中略] 独立行政法人「宇宙航空研究開発機構」の初代理事長に，山之内秀一郎・同事業団理事長（六十九）を充てることを正式に了解した。（BCCWJ：北海道新聞）

その他，BCCWJにおいて「構文的な構造」としては取り出せないが，前の文脈から対象となる動作・行為が明確な場合もある。

- (18) 山頭火は仕方なく，別れた妻のサキノ，健，妹のシズの三人に身柄保証を依頼する手紙を書いた。これまでの三人に対する仕打ちを思い，不安と自己嫌悪に苛まれながらも，一日千秋の思いで待つ山頭火に届いたのは，やさしい健からの了解する旨の返事だった。（BCCWJ：小説新潮）

<名詞の場合>

- (ii) 特定の動詞とのくみあわせ 太陽：15例/BCCWJ：12例

獲得	：「了解をえる／とる／とりつける／いただく／遂げる」
要求	：「了解を求める／こう」 提示：「了解を出す」
相互行為	：「了解をかわす」 成立：「了解が成立する／なる／つく」

意味Bの場合，動作・行為の承諾を他者に与えるため，上のような動詞とともに用いられる。この種の例は，太陽コーパス（例19・20）にもBCCWJ（例21・22）にもみられた。

- (19) 中央亞米利加に移民を計畫し，明治廿七年グアテマラを探險して大統領，内閣員を訪問，その了解を得て廿七年七月の末に日本へ歸つて來た。（太陽1925年10号：実業界の生活を顧みて）

- (20) 然るに學校の出身者や關係者は，何故校葬にしないのか と云つて自分を責め，その辯解に困らされた位であつた。當日の夕方穂積陳重さんは態私に家に来て，是非校葬にして貰ひたい とのことであつたが，これにも事情——初め自分の専斷で校葬にするつもりでゐた——を話して其諒解を乞ふたやうな始末であつた。（太陽1917年13号：中央大学経営者としての奥田男）

- (21) 丸山が東大3年のときの受講ノートの余白に書きつけたペン字のAB対談形式の時局批評で，丸山の死後にみつかったのを夫人の了解を得て初めて公にするものだそうである。（BCCWJ：朝日新聞） 例（1）再掲

- (22) シャロン氏は，「国境から四十キロほどテロリストを排除するだけだ」と説明し，作戦実施の了解を取りつけた。（BCCWJ：朝日新聞社 アエラ）

- (iii) 人(組織)ト 人(組織)ノ間ニ／デ 了解ガアル 太陽：9例/BCCWJ：1例

二者の間のかかわり、つまり承諾を与える者と承諾を必要とする相手とのかかわりが明示され、意味Bとなる。

(23) 兎も角、石井が紐育で例の東洋モンロー主義を聲明して喝采を得たちう事から考へても、米國政府と石井との間に或程度の諒解があつたちう事は推測する事が出来るだらうぢやないか。(太陽1917年13号：政界の表裏 各政派の肚の底)

(24) 鈴木善幸首相がシーレーン防衛を表明「周辺海域数百カイリの範囲内と、航路帯千カイリを、憲法と照らし合わせ、わが国自衛の範囲内で守っていく政策を強める」(ワシントンでの会見で)ライシャワー元米駐日大使が「核兵器を積んだ艦船の寄港は、核持ち込みにはあたらぬ。日米間で、口頭了解がある」と発言〔後略〕(BCCWJ：朝日新聞)

- (iv) 慣用表現：暗黙ノ了解 太陽：3例/BCCWJ：5例

決まった表現になっているものとして「暗黙の了解」がある。動作・行為を規定したり制限したりする不文律の意味であり、「了解」は意味Bとなる。

(25) 一、労働黨と自由黨との間に、暗黙の諒解が出來、自由黨が保守黨を援助することを欲せず保守黨の作略に乗せらるゝことを鮮かに拒絶しましたから、〔後略〕(太陽1925年10号：次の内閣論(又しても憲政常道の仮声))

(26) 「原則、普通株への轉換権は行使しない」—從來、銀行と金融庁の間では、こうした暗黙の了解が存在した。しかし、政府は今後は轉換権をガバナンス強化のために有効に活用する方針で、普通株轉換のルール作りを急いでいる。(BCCWJ：東洋経済新報社 金融ビジネス)

その他、名詞の場合で、BCCWJで意味Bと判断できる例として「了解の返事／合図」「口頭での了解」といった言語などでのやりとりを表わす例がみられた。

(27) 「誰です？」(大和化成常務、烏丸誠二。勤務先から帰宅する途中、所轄警備部の警護を振りきって姿を消した。視察員の存在にも気づいていたものと思われる。犯人からなんらかの指示を受けた可能性もある。すぐに丹原三曹を連れてこい)息急き切って伝えると、了解の返事を待たずに電話は切れた。(BCCWJ：週刊文春)

<感動詞的なもの>

- (v) 単独で文をなす：了解。 太陽：0例/BCCWJ：2例

主に会話文において感動詞的に使われた場合、話し手による、聞き手など承諾を必要とする人への肯定の返答となり、すべて、意味Bとなる。感動詞的なものは、BCCWJでは少数(2例)みられた。太陽コーパスにおいても小説などの会話文は含まれるが、しかし、感動詞的なものは1例もみられなかった。

(28) 山崎氏の党内の権力基盤は弱く、「山崎氏が『了解』と言っても決まりではない」(森派幹部)とも言われる。(BCCWJ：読売新聞)

以上、4節では、意味A、意味Bになる場合のそれぞれの構文的な構造を述べた。これを

踏まえて、以下、意味A、意味Bそれぞれの実例数の年代による推移、および、品詞・表記との相関を調べる。

5. 量的な分析—実例数の調査—

まず、意味の問題に入る前に、品詞別の実例数の推移を表3に示す。下段の（ ）は、それぞれの年代の実例数に占める割合である。なお、BCCWJでは「了解」が複合語の一部分の場合（動詞2例、名詞6例）を含む。この点は表4・表5・表6も同様である。名詞と動詞を比較した場合、1895年ではすべて動詞だったのが、徐々に名詞が増え、1925年にはほぼ半々になっている。現代語では、逆に名詞の例が多い。また前述の通り、感動詞的な例は太陽コーパスにはみられない。

表3 品詞別 実例数の推移

コーパス	太陽コーパス					BCCWJ 新聞雑誌
発行年	1895	1901	1909	1917	1925	2001 —2005
動詞	20 (100)	37 (90)	90 (89)	77 (75)	34 (47)	17 (37)
名詞	0 (0)	4 (10)	11 (11)	26 (25)	38 (53)	27 (59)
感動詞的	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (4)
合計	20 (10)	41 (10)	101 (10)	103 (10)	72 (10)	46 (100)

次に、「了解」の意味ごとの実例数の推移を示す⁶。

表4 意味別 実例数の推移

コーパス	太陽コーパス					BCCWJ 新聞雑誌
発行年	1895	1901	1909	1917	1925	2001 —2005
意味A	20 (100)	41 (100)	98 (98)	89 (88)	50 (75)	3 (7)
意味B	0 (0)	0 (0)	2 (2)	12 (12)	17 (25)	42 (93)
意味A + 意味B	20 (100)	41 (100)	100 (100)	101 (100)	67 (100)	45 (100)
判断が 難しい例	0	0	1	2	5	1
合計	20	41	101	103	72	46

やはり、BCCWJでは意味Bが大多数を占めるのに対し、太陽コーパスでは意味Aが大多数を占めるという結果となった。太陽コーパスを年代ごとにみると、1895年、1901年では意味Aがすべてであったのが、1909年になって意味Bがごく少数みられ、1917年、1925年と年代が下るにしたがって意味Bの占める割合が増えている。

以下、意味Aか意味Bかの「判断が難しいもの」は、除外する。太陽コーパスにおいて、「判断が難しいもの」のうち、際立ったものとして、次のような、人（および組織）どうしの関係が問題となる例がある。面識・交流をもつというような意味であろうと推測される。例（29）は、意味Bの構文的な構造（4.2.2の（iii））に近いが意味Bでは文意がとおらず、現代語の感覚ではなじまないような文脈に現れている。

（29）大軌社長——大阪奈良間電車の大槻龍治君は元の税關長時代から大阪三長老の一人で鳴した片岡直輝君と諒解があつた。（太陽1925年 4 号：大阪唯一の社交団たる大阪倶楽部に集る人々）

（30）交渉團體を爲さぬ無所屬議員にして發言したる者は、前に長島隆二君、今回は押川方義、林毅陸の二君あるも、この人々は多少とも政黨に關係を有し、了解を有して居つたから其の便宜を得たのであつて、〔後略〕（太陽1917年 9 号：徹頭徹尾党争の府）

次に、意味変化と品詞との相関について、表 5 にまとめる。意味変化に関して、名詞と動詞との間に際立った差がみられる。太陽コーパスでは、動詞においては年代を問わず意味Aがほとんどすべてであるのに対し、名詞においては特に1917年以降、意味Bも比較的多くみられ、意味Aと意味Bはほぼ半々となっている。現代語（BCCWJ）では、名詞・動詞とも、意味Bの例が圧倒的多数を占めている。

表 5 実例数の推移（品詞と意味の相関）

コーパス	太陽コーパス					BCCWJ 新聞雑誌
発行年	1895	1901	1909	1917	1925	2001 —2005
動 詞	20/0 (100/0)	37/0 (100/0)	89/0 (100/0)	77/0 (100/0)	33/1 (97/3)	2/14 (12.5/87.5)
名 詞	0/0	4/0 (100/0)	9/2 (82/18)	12/12 (50/50)	17/16 (52/48)	1/26 (4/96)
感動詞的	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/2 (0/100)
合計	20/0 (100/0)	41/0 (100/0)	98/2 (98/2)	89/12 (88/12)	50/17 (75/25)	3/42 (7/93)

「/」の左が意味Aの実例数 右が意味Bの実例数

最後に、意味変化と表記との相関はどうだろうか。品詞との相関の場合と同様に、表にまとめる。

表 6 実例数の推移（表記と意味の相関）

コーパス	太陽コーパス					BCCWJ 新聞雑誌
発行年	1895	1901	1909	1917	1925	2001 —2005
【了解】	19/0 (100/0)	34/0 0	70/2 (97/3)	74/3 (96/4)	31/6 (84/16)	3/42 (7/93)
【諒解】	0/0	1/0 0	13/0 (100/0)	10/9 (53/47)	19/11 (53/47)	0/0
【領解】	0/0	6/0 0	12/0 (100/0)	3/0 (100/0)	0/0	0/0
【領会(會)】	1/0 (100/0)	0/0 0	3/0 (100/0)	2/0 (100/0)	0/0	0/0
合計	20/0 (100/0)	41/0 (100/0)	98/2 (98/2)	89/12 (88/12)	50/17 (75/25)	3/42 (7/93)

「／」の左が意味Aの実例数 右が意味Bの実例数

まず、BCCWJの新聞雑誌には【了解】の表記しか見られない。現代語ではそもそも【了解】以外の表記はほとんど使われないと言ってよいだろう。

太陽コーパスについて、【了解】と【諒解】では意味Aと意味Bいずれも意味でも使われている。それに対し、【領解】と【領会(會)】は意味Aでのみ使われている。しかし、【領解】と【領会(會)】は「太陽コーパス」でも1925年にはない。つまり、意味Bが多く使われ始める年代には、意味の違いに関わらず【領解】と【領会(會)】の表記の例自体がないのである。そのため、これら2つの表記が意味Aに限られるとは断言できない。むしろ、意味に関わらずその表記自体が使われなくなった可能性が高い。

以上、意味A、意味Bの実例数の変化を調査結果をもとにまとめた。

6. 結論と残された課題

6.1 結論

本稿の結論をまとめる。

- ・ 漢語「了解」の意味の変化の推移は、品詞によって違う。
- ・ 明治大正期の書き言葉では、「了解」がサ変動詞の場合、年代を問わずほとんど全て意味A（≒理解）で使われている。
- ・ 名詞の場合は特に1920年前後から、意味B（≒承諾）が多く現れており、意味Aと意味Bが実例数でほぼ拮抗する。
- ・ 現代語の書き言葉では、名詞であれ、サ変動詞であれ、意味Bとして使われている例が圧倒的多数である。
- ・ 以上から、「了解」は1910年代頃までは名詞であれサ変動詞であれ意味Aで使われていたが、1920年前後から名詞の場合で意味Bが生じ、その後、名詞の場合が動詞の場合に先行して、意味Bが広がったといえる。

- ・また、これとは別の、純粋に品詞の問題として「了解」はもともとサ変動詞として使われていたが、徐々に名詞としての用法が出てきて、名詞用法が現代では優勢になりつつある。
- ・なお、意味の違いと表記が関連することを示すデータは見られなかった。

6.2 残された課題

残された課題として、既存のコーパスがないため、明治大正期と現代語との間、昭和(1920年代～1980年代)の使用実態を調査することはできなかった。今後の課題としたい⁷。また、「了解」の意味変化をより正確につかむためには「理解」「了承」「承諾」などの類義語の使用実態を分析し、類義語どうしのほりあい関係の変化を調べる必要がある⁸。

理論的な面として、意味変化が品詞(動詞か名詞か)によって違う理由や、品詞の変化(動詞から名詞へ)と意味変化の関連をどう説明するかについても、今後の課題としたい。

参考文献

- 奥田靖雄 (1967) 「語彙的な意味のあり方」教育科学研究会国語部会『教育国語』8, むぎ書房。(再録 奥田靖雄 1984 『ことばの研究・序説』, pp.3-20, むぎ書房.)
金田一春彦・池田弥三郎(編) (1988 [1978]) 『学研国語大辞典 第二版』学習研究社.
小学館大辞泉編集部(編) (2012 [1995]) 『大辞泉』第2版, 小学館.
中山健一 (2009) 「動詞「くる」と「いく」の多義構造の違いについて」東京外国語大学大学院グローバルCOEプログラム コーパスに基づく言語学教育研究拠点『コーパスに基づく言語学教育研究報告1』, pp.191-217.
中山健一 (2013) 「「了解」の意味の変遷 —19世紀末から現代にかけて—」国立国語研究所『第3回コーパス日本語学ワークショップ 予稿集』, pp.169-178.
飛田良文・松井栄一・境田稔信(編) (1997-継続刊行中)『明治期国語辞書大系』大空社。(普13, 普17, 雅15の3巻は未刊)

註

- 1 本稿は第3回コーパス日本語学ワークショップ(2013年2月, 国立国語研究所)におけるポスター発表(中山2013)の内容をもとに, 大幅な加筆修正を加えたものである。ポスター発表において有益なコメントを下さった国語研究所の先生方と聴衆の方々, ならびに本誌査読者に感謝申し上げる。
- 2 「品詞情報」の「(名)スル」は, 名詞のうちサ変動詞としても使われるものを表わす。
- 3 現在(本稿投稿時)において, 「普」全21巻のうち2巻(普13と普17), 「雅」全15巻のうち1巻(雅15)は未刊。
- 4 和語動詞「わかる」への当て字など, 今回の調査対象外のは手作業で削除した。また, やや特殊な語だが「領解」と書いて「りょうげ(りやうげ)」と読む語もある。これについて「ひまわり」のルビ検索で「りやうげ」と検索したところ該当はなく, また, 収集した事例にも筆者の判断する限りではそれらしいものはなかった。
- 5 同時に「(i)」にも入る例が1例ある。
- 6 4節においてそれぞれの「構文的な構造」で示した実例数を足しても, 表の合計実例数に満たない。それは, 明確に「構文的な構造」が取り出せない例もあるからである(太陽コーパスにおいて, 意味Aで動詞21例, 名詞14例, 意味Bで動詞1例, 名詞3例)。それらの例も, 4.1で述べた意味の違いを文脈から判断することが可能である。
- 7 中山(2013)では, 新潮文庫の100冊CD-ROMの昭和の作品を分析し, 「太陽コーパス」以後の変化を分析しようと試みた。しかし, 年代の偏りが非常に大きく(1920年代～1980年代発表作品の実例が得られはしたが, 数は1960年代発表作品の実例だけで7割弱を占める), 十分な分析ができな

かった。

- 8 「了解」と同様に二つのコーパスで「理解」を調べたところ、太陽コーパスでは「了解」337例に対し「理解」338例と実例数に大きな違いはなかったが、BCCWJでは「了解」46例に対し「理解」595例と「理解」が頻繁に使われるようになっている。このことと「了解」が意味Aで使われなくなりつつあることとは関連がある可能性がある。

The Change in the Meaning of *Ryookai*: Based on the Analysis of Taiyo Corpus

Kenichi Nakayama

In current Japanese *Ryookai* indicates “consent, agreement (to an offer, proposal).” However, in the Meiji and Taisho Era (1868- 1926), *Ryookai* meant “understanding.” This paper will discuss the shift in the meaning of *Ryookai* (from “A”: “understanding” to “B” :“consent, agreement”) based on the analysis of Taiyo Corpus (TC), which contains the articles of the general magazine “Taiyo” published in 1895, 1901, 1909, 1917 and 1925. The analysis of TC and the comparison to a current written Japanese corpus (BCCWJ) conclude that during and prior to the 1910s, *Ryookai* was used in the meaning “A” regardless of use, as a verb or noun, but after 1920s *Ryookai* as a noun began to be used in the meaning “B.”

Keywords: Japanese Loan Word from Chinese, *Ryookai*, Taiyo Corpus, Change of Meaning, Syntactic Construction